

Tazaki 財団英国留学奨学金留学成果報告書

一 橋 大 学

所属学部・学年	商学部・3年	氏名	早川月菜
派遣先国 (地域)	イギリス	派遣先大学	マンチェスター大学
派遣期間	2023年 9月 ~ 2024年 6月		

留学目的の達成度・留学成果について

私の留学の目標は、多様な価値観・バックグラウンドを持つ人との関係構築方法を学ぶというものだったが、それはほとんど達成できたと考えている。具体的には、人と信頼関係を獲得し、良い関係性を構築していくには、国籍、出身、性別など関係ないということを学ぶことができた。これを学ぶことができたのはチアリーディング Society での経験であった。そもそもこの部活はオーディションを通過しないと入れなかったため、入る前の段階から「日本人交換留学生なんて入れないだろう」と考えふらっとオーディションに行った。しかし合格という結果を受けたため大変驚いた。後日、どうして日本人交換留学生という、ある意味異質な存在をチームに入れてくれたのかをキャプテンに聞くと「何が問題なの？あなたのパフォーマンスが良いと思ったからチームに来てもらった」と言われハッとさせられた。この瞬間私は、逆に自分が〇〇人だからといった枠組みにとられ人を見てしまっていたのだと実感したのだ。

この後の活動で私は、自身が日本において信頼関係構築のために実践している、自分自身が全力で頑張ること、他人が求めるものより少しでも良いから超える成果を出すことを意識して Society 活動に取り組んだところ信頼を得ることに成功し、チアリーディングでは肝となる Flyer という役割を任せてもらうことができた。これらの経験から私は、国籍や性別に関係なく一人の人として相手のことを見るようにしたい、しなければならぬと実感するとともに、そうすることによって相手からも信頼を得ることができ良い関係を築くことができるのだと学ぶことができた。

海外での生活について

海外での生活自体初めてであったが、想定していたこと、想定していなかったこと様々あり、毎日がとても刺激的であった。想定していたこととして、やはり英語での生活には大変苦労した。自分自身留学前に英会話は勉強してから行ったものの、実際に現地に行ってみると、ネイティブスピーカーの話すスピードの速さや、自身の英語の伝わらないもどかしさには何度もくじけそうになった。しかし、そこで諦めるのではなく、積極的に自分から話に行ったり、語彙力や発音の強化をしたりすることで少しずつ話せるようになりコミュニケーションが少しずつではあるがとれるようになったことは、自身の大きな財産となった。

想定していなかったこととしては、例えば洗濯が終わった自分の洗濯物が勝手に洗濯機の外に出され次の人に使われているというようなことがあった。今となっては笑い話だが、当時はどうしたものかと困惑したことを覚えている。このような想定しなかったようなことに多く直面したことで、少しのことにも気にならなくなったり、自分と価値観の違う他人にとっても寛容になったりすることができたのは、留学を経て得ることができた新たな学びともいえるだろう。

派遣先大学の授業内容について

留学先ではおもに自身の専門科目である商学部科目を受講していたが、その中でも新商品開発やイノベーションといった領域を中心に受講していた。感じたこととしては2つあった。1つ目は日本での学びも海外でも通用するということだ。日本で習っていたビジネスのフレームワークや考え方というのは留学先の大学でも学ぶことがあったし、また逆に留学先では習っていなくても日本で習ったことを使って考えたり、発表したりすることで良い評価をいただくこともできた。これは、海外の大学はレベルが高いからついて行くことができないだろうと考えていた自分にとっては衝撃であったが、自信にもなった。

一方で2つ目の感じたこととしては、ビジネスの授業であってもSDGsといった、持続可能な社会に向けた取り組みの話が出てくるのは日本とは違って興味深かった。具体的には、ある会社のビジネスがどのように利益を得ているかという面からだけではなく、どれほど持続可能な社会に向けた取り組みを行っているのかという観点から会社を分析することがあった。このように大学（もしかしたらそれ以前から）においても持続可能性について議論をしていくからこそ、ヨーロッパ地域はSDGsの活動が盛んなのかもしれないと感じた。また、こういった活動は日本でも取り入れるべきなのではないかとも考えた、興味深い授業であった。

今後の学習・進路への影響について

今後の進路に関しては、この経験を生かしてより海外と関係を持つことができる職業に就きたいと考えるようになった。留学先で学んだ人との信頼構築の方法や、価値観の変化は今後の学習はもちろん、どのような進路を選ぶとしても活かせると感じているため、積極的に活かしていきたい。

寄附者への謝意

この度は私を奨学金の受給者として採用いただきまして誠にありがとうございました。Tazaki財団様の奨学金なしにはそもそも留学ができていなかったと思っております。また、ただ留学に行くだけではなく、奨学金という形で多額の支給を賜ったおかげで学習以外のSociety活動にも従事することができ、貴重な経験をすることができました。貴財団の奨学生に採用されていなければ、ここまで充実した留学生活を送ることはできていませんでした、重ねて感謝申し上げます、有難う御座いました。